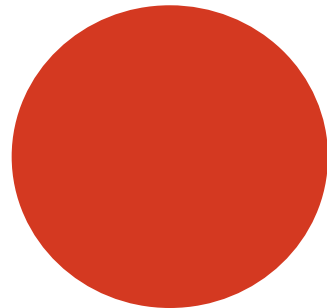


"現場の判断力"を、AIに移植。

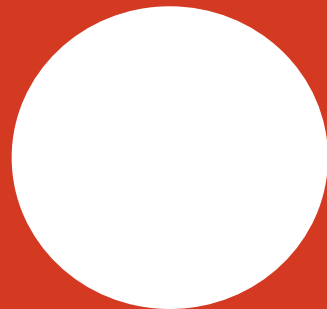
受発注ナレッジプラットフォーム × AIエージェント。

受発注バスターズ。



サービスの特徴

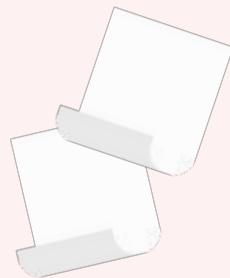
Service features



受発注バスターズ

発注側

発注書を送付



受注側

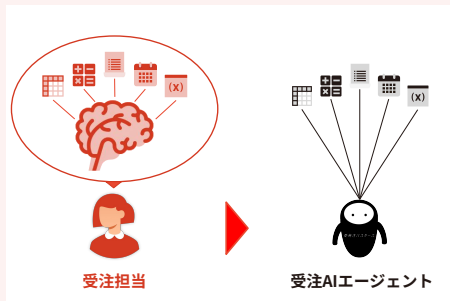
発注書を受領
入力・受注処理

受発注バスターズは、
発注書の回収・読取・変換・承認・入力業務を効率化するクラウドサービスです

POINT 01

人の頭の中のノウハウ・コツをAI化

特定の人脳内に眠っていた
暗黙知→形式知化し、AIが利用可能に

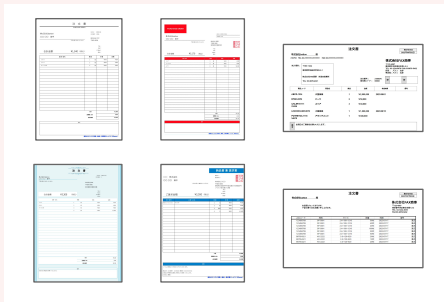


受注業務自動化におけるボトルネックは、各担当者の頭の中に眠る暗黙知（ノウハウ・コツ）。
弊社では、複雑な“現場の判断力”を形式知化（言語化・数式化）できる専門チームが存在するため、
ツールだけでなくスキル人材支援も同時に提供。

POINT 02

1帳票ずつカスタマイズ開発

取引先ごとに存在するルールを
個別に処理することで完全自動化

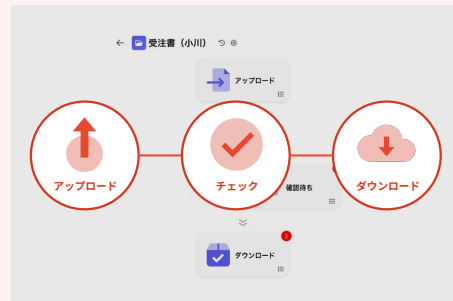


取引先ごとのバラバラなレイアウトや商品の書き方
に対応するには、個別に細部まで設計が必要。
弊社サービスは、複雑な対応を可能にするため、
1帳票ずつに異なる学習ができるように開発。

POINT 03

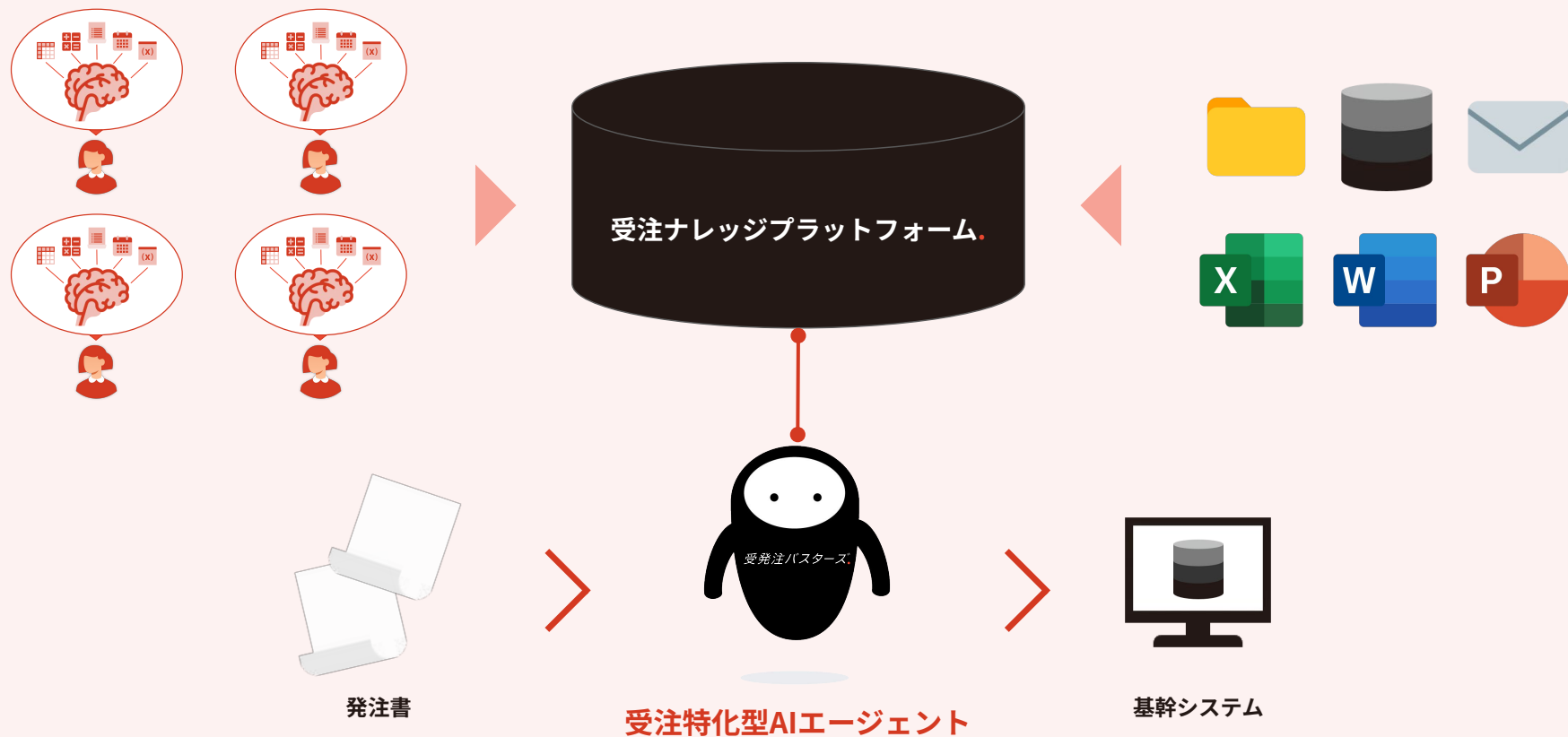
受注業務の標準化で脱属人化

画像アップロードだけで
受注データが数十秒で完成



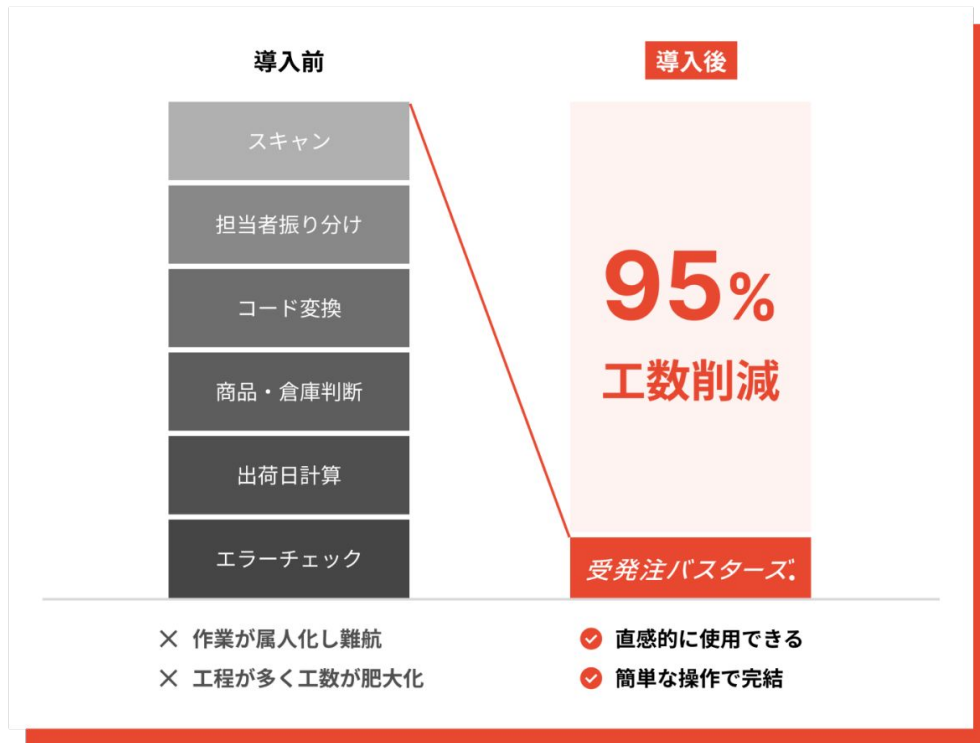
全ての受注のナレッジがAIに学習されているため、
数十秒でシステムへの取込データが完成。
3ステップで可能なので、学習コストも必要なし。
他システムやExcelなどが不要になるため、
本当の意味での自動化が可能に。

受発注バスターズの仕組み



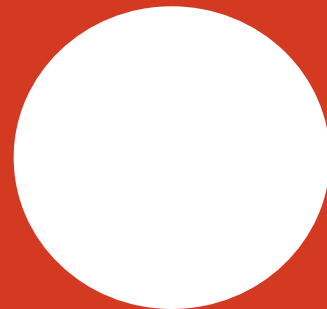
受注処理業務の 手入力ゼロを実現

悩むことなく受注業務が可能に



受注業務自動化の課題

Issue of automating order processing



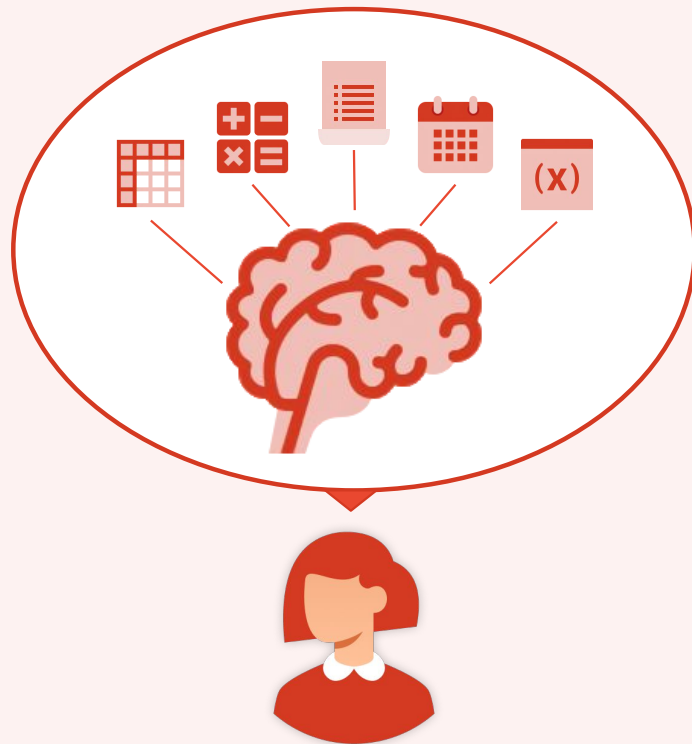
受注業務自動化のボトルネックは 人の頭に眠る“知識”

POINT 01

発注書はレイアウトだけでなく、商品や納品先の書き方もバラバラです。
そのため、“現場の判断”も帳票によって異なります。
担当者が覚えているので業務が回っている状態になってしまうため、
いつまでも属人化の課題を抱えたままの状態です。

POINT 02

受注業務自動化におけるボトルネックは、
各担当者の頭の中に眠る暗黙知（ノウハウ・コツ）です。
弊社では、複雑な“現場の判断力”を形式知化（言語化・数式化）すること
に加えて、AIに学習させることで、“現場の判断力”をAIへ移植します。



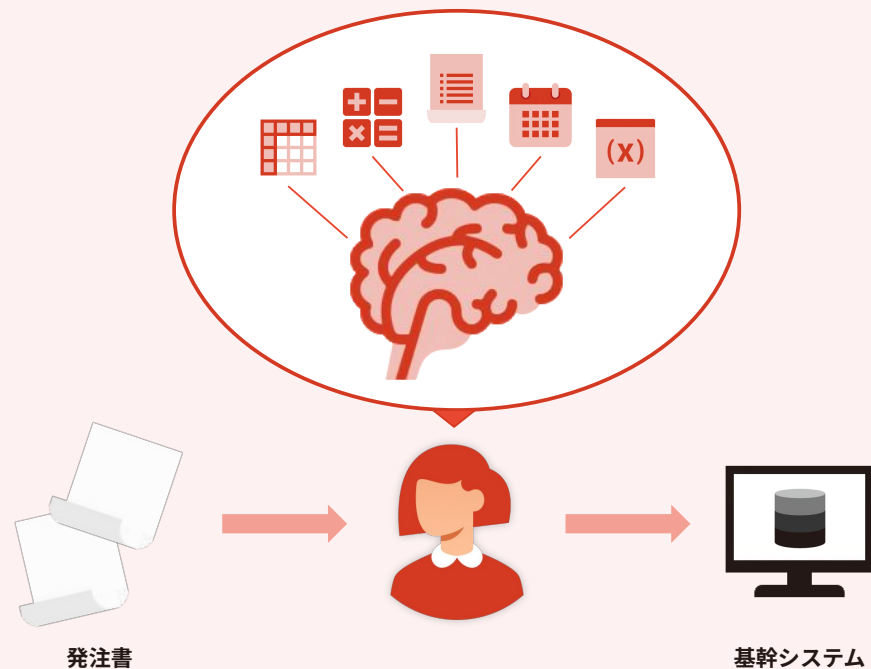
単純作業というのは、大間違い 常に“現場の判断”が必要な複雑作業

POINT 01

世間では「誰でもできる」「パートさんでも」と思われがちですが、実際は商品名のゆらぎ／納期調整／配送条件判断 など毎日複雑な判断を積み重ねているのが現状です。

POINT 02

ベテラン依存度が高く、個人ごとにノウハウやコツが存在するので、属人化した業務となっています。
常に欠勤や退職リスクと隣り合わせ、かつ新人教育の課題もあります。



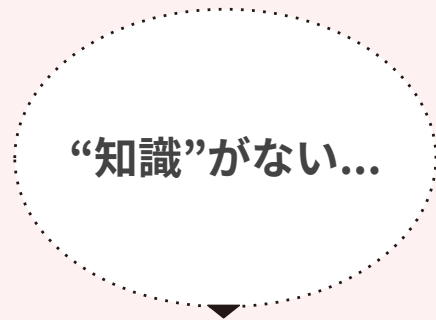
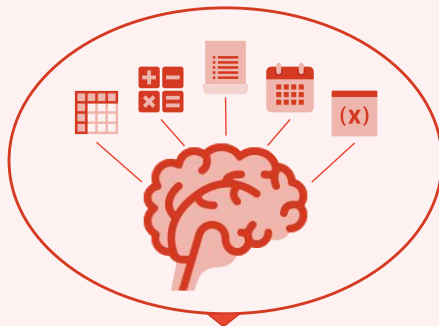
人間と同じ量の“知識”を与えないと AIは肩代わりにはならない

POINT 01

システムやAIをただ導入するだけでは人間の代理で業務を遂行できません。
特に受注業務のような人間の脳内で判断している作業を置き換えるには
まずは個人ごとが持っている「知識」を明らかにし、
暗黙知(ノウハウ/コツ) → 形式知(マニュアル)にしていく作業が必要です。

POINT 02

形式知化（マニュアル化）したノウハウ/コツをAIに学習させられる
言葉や数式にする作業が必要になります。
受注業務のように、毎回受領する内容が変わる帳票については
“知識”を網羅的に説明し、
AIが稼働できるような指示ができていないかが重要となります。



「めんどくさい」から、誰も本気で取り組まなかった

受発注バスターズ。

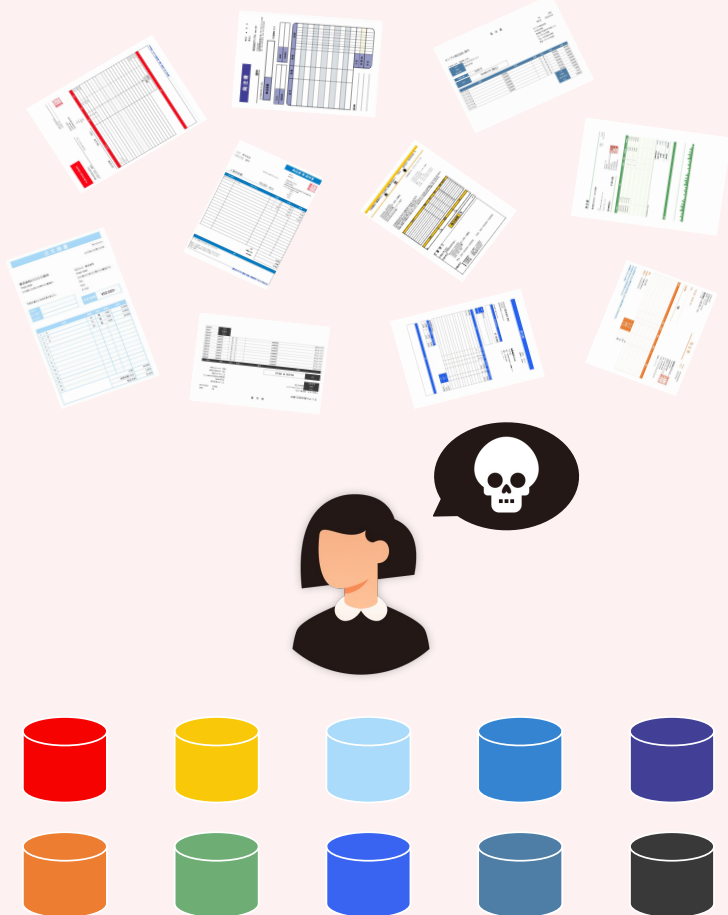
めんどくさいことをあえて、 私たちがやります

POINT 01

OCRでの読み取り設定は取引先分をやらないといけません。
また、RPAなどを組み合わせても細かい仕様までは網羅できず、
その結果、表面的な自動化で止まり、根本解決はされませんでした。

POINT 02

取引先ごとに異なるルールや癖に対応するのも時間がかかります。
例えば同じ「商品マスタ」でも、記載内容が異なるので
個別にマスタを0から作成する必要がありました。
帳票の内容を一つずつ確認していくのは限界で、運用も含めて対応が難しい領域でした。



AI-OCRとの技術の差はない

大量に細部まで設定できるかに差がある

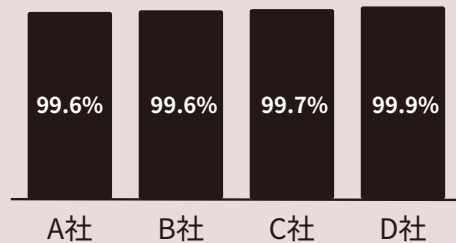
POINT 01

99.6%と99.9%の違いは帳票の状況によって異なるため、AI-OCR機能の精度比較は大きな差がなく、判断が難しいです。100%にはならない技術領域なので、完璧は求められないのが現実です。読取精度は、すでに技術として天井がきています。

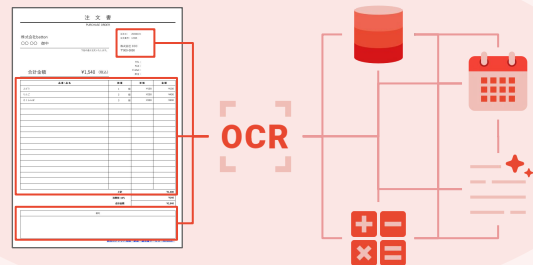
POINT 02

実際に現場で「活用できる・できない」が分かれるのは、発注書を一つずつ細部まで完璧に設定できるかどうかのポイントです。OCR後の処理も、細部までカスタマイズ性が高いかを注目してください。また、技術的な要素だけでなく、社内で運用に任せ、保守ができるスキル人材と時間的コストを用意できるかも重要となります。

AI-OCRを精度比較しても、大きな差はない



OCR後の処理を細部まで設定できるかがポイント



AI移植をサポートする

専門チームの『情報設計士』がいる

POINT 01

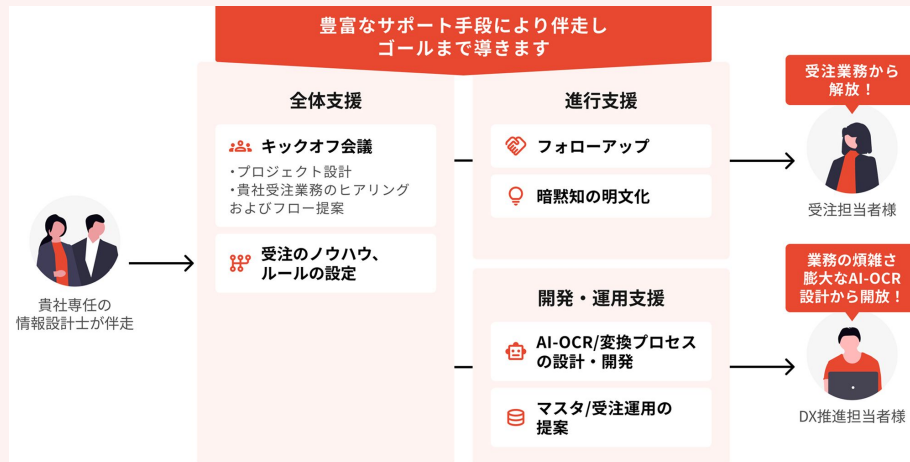
製造業・卸売業での受注に特化しているため、あらゆる企業の受注ナレッジとAIスキルを持つメンバーの専門チームです。現場の暗黙知→形式知化し、AI稼働できるまで責任を持ちます。

【ヒアリング→マニュアル化→AI学習用データ設計→運用改善】
までをノンストップで行い、ツールだけでなくスキル人材支援も同時に提供いたします。

POINT 02

AIの安定稼働には、

「学習ループ（ルール更新→再学習→反映）」が不可欠です。
初期構築ただけで完了ではなく、暗黙知を継続的になくしていき、
本当の意味での完全自動化を実現するには運用保守まで含めた
プロジェクト体制が必要です。



お悩みやご不明点がございましたら
お気軽にお問い合わせください！

sales@batton.co.jp